

第1学年2組 国語科学習指導案

- 1, 単元名 くらべて読もう
教材名 じどう車くらべ (光村図書)

2, 単元の目標

- ・自動車図鑑を作るために必要な情報を収集し、いろいろな自動車の仕事や作りに興味を持ちながら読もうとする。【関心・意欲・態度】
- ・三種類の自動車について、仕事と作りの関係を考えながら内容の大体を読むことができる。
【読むこと】
- ・教材文を参考にして、好きな自動車の仕事と作りを説明する文を書くことができる。
【書くこと】
- ・片仮名で書く語を読んだり書いたりできる。【言語事項】

この単元で捉えさせる原理・原則

二つの問いに対して、具体例によって二つの答えを述べる説明文の構成。

3, 指導にあたって

(1) 教材観

本教材は、この時期の児童の興味・関心の対象として代表的な物の一つである自動車を取り上げた説明文である。

入学して初めて出会った説明文「いろいろなくちばし」は、それぞれのくちばしについて「問いかけ」のページの後に「答え」のページがあるというわかりやすい構成になっている。本教材は、その学習を踏まえて、「話題・問題提示→問題に対する説明」を、自動車の「しごと」と「つくり」という二つの事柄の因果関係で述べる形をとっている。「それぞれのじどう車は、どんなしごとをしていますか。」「そのために、どんなつくりになっていますか。」という二つの問題提示が初めにあり、それに対する二つずつの答え（「しごと」と「つくり」）が、自動車の種類ごとに述べられている。条件や理由を表す「そのために」というつなぎ言葉で、「しごと」と「つくり」が結びつけられているので規則性があり、文章構成の形式に気付きながら読むことができる教材である。

単元全体の構成は、①説明文の構成を学習し内容を読みとる（バス・じょうよう車、トラック、クレーン車）②挿絵から「しごと」と「つくり」を見つけ出す（はしご車）③好きなじどう車を選び自分で調べて絵や説明文を書く、という三段階になっている。児童の興味関心を引き出しながら自分も書いてみたいと思わせるような工夫がされ、書くことを通して学んだことを活用できる教材である。

(2) 児童観

「いろいろなくちばし」の学習で、児童は「～でしょう。」「～です。」という文型が質問と答えになっていることに気付き、「問いかけ」と「答え」を意識できるようになった。読みとりの後、教科書にある写真を使っていろいろなくちばしの説明文作りに挑戦した。ほとんどの児童が、学習したことを活用して、挿絵から読みとったことを「問いかけ」の文にし、それに対する「答え」の文を書くことができた。

書くことに関しては、一学期から文を意識させてきた。二学期は、毎日の帰りの会にひとこと日記を取り入れ、したこととと思ったことを二つや三つの文で書く練習をしている。書く速さや表現力では個人差が大きく、意欲をなくさないために支援を必要とする児童もいる。

音読は、授業の中だけではなく毎日の家庭学習や朝の会にも取り入れているので、進んで読

めるようになってきている。しかし、一人一人をみると、初めての文では拾い読みになってしまったり、片仮名や漢字が混じるとスムーズに読めなかったりする児童もいるので、片仮名と漢字の学習をした後、読みとりにのぞみたい。

本の読み書かせは、集中して聞くことができる。全校で取り組んでいる「読書の歩み」のおかげで、進んで図書室の本を読んだり借りたりする児童も増えてきた。また、「いろいろなくちばし」の学習やハムスターを飼ったことをきっかけに、必要なことを調べるために図鑑を使うようになってきた。

(3) 指導観

「いろいろなくちばし」は、内容の読みとりが学習活動の中心であったが、「じどう車くらべ」では、教材文を参考にして自ら説明文を書きあげることがをねらっている。学習したことを十分活用して説明文を書けるように、二つのことを重点的に取り組みたい。

一つ目は、「どんなしごとをしていますか。」「そのために、どんなつくりになっていますか。」という最初に出てきた二つの問いかけを押さえて、それに対応する答え（「しごと」と「つくり」）を書かせることである。問いかけは最初にしか出てこないが、二つに問いかけに対する二つの答えがあること、また「しごと」と「つくり」は別の物ではなく、「そのために」という言葉でつながり関連し合っていることにも気付かせたい。

二つ目は、絵や写真などの資料から特徴を読みとり文章に表現する力をつけることである。文章を読みとる際には挿絵と文を引き出し線でつなげて、絵には重要な意味があることを理解させたい。そして、文を書くときには、絵のどの部分を説明しているかを意識させて書かせたい。

説明文を書くためには、資料集めも大切である。図書館司書と連携して図鑑や本の選び方と調べ方の指導をする予定である。市立図書館から自動車に関する本や図鑑を取り寄せたり、児童の家から持ってきてもらったりして、自分の調べたい自動車が載っている本を選択できる環境作りにも配慮する。できるだけ多くの情報を準備したうえで、個々の児童の実態に応じた支援をしていきたい。

(4) 活用力向上について

・構成の規則性をつかむ（学習活動の分類③）

説明文は「問いかけ→答え」が基本になっている。本文は、全体の二つの問いかけに対して、それぞれの意味段落に答えが二つあるという構成になっている。「いろいろなくちばし」は一文一段落であったが、「じどう車くらべ」は、二文で構成されている段落もある。まず、形式段落をきちんと押さえて段落意識を持って読めるように、次に主語を見つけることで、文のまとまりである「意味段落」に気づかせたい。説明文の構成の規則性を捉えることが、自分で内容を読みとる力や、説明文を書く力につながると考える。

・言葉や文の役割を知る（学習活動の分類③）

言葉や文の規則性に気づかせ、それぞれの役割を捉えさせる。「～いますか。」「しています。」「つくってあります。」「なっています。」などの文末表現を意識させ、「問いかけ」と「答え」を見つけ出すための手がかりにする。また、段落と段落をつなぐ「そのために」という言葉の役割にも気づかせる。「文」「段落」「問いかけ」「答え」などの用語も使えるようにする。

・資料を読みとり文章化する（学習活動の分類④）

一年生の説明文では、挿絵や写真が資料として重要な役割を持っている。絵と文を結びつけて丁寧に読みとることが、資料（挿絵や写真）から様々な情報を読みとる力になる。絵を読み取って文を書く、文を読み取って絵を描くという双方向の学習活動を行うことが、資料を読み取り文章化する力になると考える。

・情報を収集、選択する（学習活動の分類④）

自動車の説明文を書くときに、児童は資料（本や図鑑）を見たり読んだりしてさまざまな情報を集める。しかし、児童が求めている形で手に入ることはなく、この教材で学んだ形式を生かしながら、書き写したり書き換えたりしなければならない。自分が何を書きたいかという目的をはっきりさせ、集めた資料の中から必要な情報を選択する力をつける。

・伝え合い発展する（学習活動の分類⑥）

自分が作ったマイ自動車図鑑を友だちの前で発表し、感想を伝え合う。その際、全員が一度は感想を述べるができるように工夫をする。また、感想の視点を教えて、発表の仕方ではなく自動車図鑑の内容について感想が言えるようにする。そして、友だちが言ってくれた感想を受けて自分が書いた文章の振り返りをする。

4, 単元の指導・評価計画（総時数 9時間）

小単元	配時	学習活動	学習活動の分類	教師の働きかけ	評価基準	関	読	書	言
						・意	む	く	語
						・態	こ	こ	事
						○			項
学習の見通し	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習の見通しをもとう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・本文を読み、挿絵や経験をもとに話し合う。 ・自動車図鑑を作るために、説明文を学習することを知る。 		・昨年の一年生が作った自動車図鑑を提示して、興味を持たせる。	・興味を持って、自動車について知っていることを発表したり、友だちの発表を聞いたりしている。	○			
	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">漢字と片仮名の勉強をしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字、片仮名の練習をする。 			・進んで、漢字や片仮名を書いている。				○
構成をつかみ内容を読み取る	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">バスやじょうよう車の「しごと」と「つくり」を調べよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの問いを確認する。 ・問いに対する答えを見つけ、線を引く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">バスやじょうよう車の説明文</div>		・二つの問いを確認し、それに対する答えである「しごと」「つくり」の文を本文から見つけさせ、線を引かせる。	・バスやじょうよう車の「しごと」と「つくり」を本文から読み取っている。		○		
	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">トラックの「しごと」と「つくり」を調べよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの問いを確認する。 ・問いに対する答えを見つける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">トラックの説明文</div>		・理解を深めるために、挿絵に注目させ「つくり」の文と挿絵を引き出し線をつながせる。	・挿絵と結び付けて、トラックの「しごと」と「つくり」を読み取っている。		○		

5, 本時の学習 (第3次の1時)

(1) 本時のねらい

- ・はしご車の挿絵を見て「しごと」と「つくり」を考え、説明する文を書く。

(2) 評価規準

- ・はしご車の「しごと」と「つくり」の関係を理解し、「そのために」でつないで文を書いている。

(3) 準備

- ・はしご車の絵、ワークシート

(4) 本時の展開

学習活動	配時	児童の主な意識の流れ	○主な支援 ■評価
<p>1, つかむ</p> <p>・本時のめあてを確認する</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「どんなしごとをしていますか。」と「そのために、どんなつくりになっていますか。」が 問いかけ だよ。 ・今日は、はしご車の「しごと」と「つくり」をみつけるよ。 	<p>○問題提示文を振り返り、それに対する答えを見つけることを確認する。</p>
<p>はしご車の「しごと」と「つくり」をみつけて、ぶんをかこう。</p>			
<p>2, ふかめる</p> <p>①はしご車の絵を見て「しごと」と「つくり」を話し合う</p>	15	<ul style="list-style-type: none"> ・はしご車の「しごと」は、火事の時、人を助けることだよ。 ・高い建物で、逃げおくれた人を助けることができるんだよ。 ・高いところに届くように、はしごが伸びるようになっていたんだね。 ・逃げ遅れた人が乗れるように、かごみたいな物がはしごの先に付いているよ。 ・車体の下に、クレーン車みたいな支えが付いているよ。傾かないようにするためかな。 	<p>○挿絵や経験をもとに自由に発表させ、興味を持たせる。</p> <p>○絵と対応できるように、絵を掲示し引き出し線でつながりながら、板書にまとめる。</p>
<p>②「しごと」と「つくり」を説明する文を書く</p>	20	<ul style="list-style-type: none"> ・「しごと」の文の初めは はしご車は で、終わりは しごとをしています だね。 ・「しごと」と「つくり」をつなぐときは、 そのために を使うんだね。 ・「つくり」には、はしごのことを書こう。 ・「つくり」には、足のことを書こう。 ・人を乗せるかごのことを書こう。 	<p>○書き出せない子には、ヒントのことが入ったワークシートを利用させる。</p> <p>○「つくり」がひとつ書けた児童には、もう一つ書くように声をかける</p> <p>■はしご車の「しごと」と「つくり」の関係を理解し、「そのために」でつないで文を書いている</p>
<p>はしご車は、かじでにげおくれた人をたすけるしごとをしています。そのために、はしごがたかいところにのびるようになっています。たすけた人をのせるための、かごもついています。</p>			
<p>3, まとめる</p> <p>・学習を振り返る</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ・はしご車の「しごと」と「つくり」がわかる文が書けたよ。 ・はしご車の「つくり」がよくわかったよ。 	

(5) 板書計画

